

ちっくと体験



座談会の前に知事がシーカヤック体験

天気はあいにくの雨でしたが、波と風はおだやかで水温も高く、シーカヤックに挑戦。シーカヤック初体験という知事は、初心者とは思えない身のこなしで「仕事で行っているのに心の底から本当にうれしかった」と夜須の海を存分に楽しんでいました。



ヤ・シィおもてなし隊の料理を堪能!

シーカヤックの後は、座談会会場の「海のやどしおや宿」で昼食。ここでは、ヤ・シィおもてなし隊が地元で採れた長太郎やシイラ料理のほか、いろいろな具を包んで食べる「カッティロール」などでおもてなし。

ダイエット中という知事もカッティロールをおかわりするなど座談会の参加者と共に地元の味を堪能したようです。



座談会

各隊員から活動の報告と現状の課題や提案、知事からの質問等、活発な意見交換がされました。紙面の都合上、抜粋して紹介いたします。

知事 高知県の目指す 滞在型、体験型観光

海の駅クラブは、目指しておられるところが深いですね。広めるとか、さらに高める、そして支え合うというお話、特に障害者の皆さんとか、幼保の皆さんとかも視野に入れた取り組みは、非常に興味深くお話を伺わせていただきました。

一つ質問ですが、観光客の受け入れをもっと増やすことは可能ですか？

野であり、目指すものだと考えます。

話の中から、高知県の滞在型、体験型観光に生きる道のような感じをすごく受けました。それなら多分、高知県はどこにも負けんかもしれません。滞在型、体験型観光に例えば、教育というものを組み合わせていく、場合によっては障害者の方っていうことでもあります。例えば、相手が大人であっても、例えば単なる社員旅行ではなく本場の意味での福利厚生というのか、同じマリンスポーツの中でも他とは違うマリンスポーツとは何かみたいなことを教えていただけたらよかったです。後大いに参考になると思って聞かせていただきました。

知事 一つ踏み込んで 売り込む

YASU海援隊にはツアーコンダクターさんか誰かがずっと連れて回っておられるんですか。

浜 受け入れ先が稲田塾の場合は、県のコンベンション協会が一人。それと私と栄枝さんが担当して同行しました。時間の調整とか、連絡調整とかは今回、私がやらせていただきました。

地元の方が初めから終りまで全部貼り付いていたら、それは重労働、大変なことです。時間的にも制約がありますし、落ち着いてほかのことができないようになりますね。

だから必ず誰かそういうオペレーターがいるわけですか。コンベンション協会が付いて回られる

丸岡隊員 知事 リーダー育成の強化を！

丸 高知県がリーダーを育成するシステムがあまりにもなさすぎるような。青年団というのは中内県政がもつとリーダーを育成せなしかんと、青年下全域にそういうリーダーがいっぱい集まって、今の時代に色んなところで活躍している。それ以来なかなか高知県は、そういうリーダーを育てるという環境が少ないのではないかと。

地域の高校生になんらかの補助金を出しても、積極的にまちづくりに参加してもらったことが、地域のために生きるんで、その中で多分リーダーが育つてくると思うんです。1人おれば色んなこと何でもできるんです。それに対してもっとお金をつぎ込まんといかんがやと思うんです。

地域地域のリーダーとなる人材を育てていくというお話は、確かに大切だと思えます。実は今回、産振計画の改定の大柱として、人材育成事業を大幅に強化するさまざま

みんなで高知を売り込もう

高知県としての滞在型、体験型の観光というものを追求していくうえで、高知が他の県とどう差別化していくか、大変参考になりました。幸い、本県には自然や歴史、ずば抜けて評価の高い食、そして人、ほかの県にはない強みがあります。この強みを生かし高知を元気にしていくために、地域の皆さんと共に県全体として観光を盛り上げていくということがどうしても必要です。

これはそう簡単に前に進める話ではありませんし、膨大なエネルギーと調整が繰り返されなければならない、継続は力なりで努力を重ねてまいりますので、どうぞよろしくをお願いします。

高知県知事 尾崎正直

■高知県のホームページにある「インターネット放送局」では、今回の座談会の様子をご紹介します。

■問い合わせ：高知県総務部広報広聴課
☎088-823-9046
FAX 088-872-5494
E-MAIL 111301@ken.pref.kochi.lg.jp

連休中に新鮮な魚が提供できない！

丸 高知の鮮魚についてですが、盆とかなると漁協はずっと休みです。5月の連休も2、3日休んでます。観光客が一番来るそのときになぜ休まないといけないのか？

高知にきてくれるお客さんに一番美味しいものを食べさせたいのに、3日も4日も連休があると、宿泊施設は手

前にマグロの冷凍を買っておくしかない。観光でまちを売ろうとしても美味しいものがそこにはないというのが現実だと思います。

高知へ観光客を呼ぶやつたらそこを考えないかん。それが県の職員やと思うんです。

いわゆるバケーションのとき、同じように自分らも休んでしまう土地柄なのか、東京なんかもそうですよ。しかし、そうじゃなくて、受け入れる側として他の人が休みのときに仕事を地としてどう意識するかというあたり、観光地として例えばまち全体、市全体が、観光客を受け入れる意識に大いにかかってくると思います。この話は、そう簡単なことではないと思うんですよ。今後の課題とさせてもらいたいと思います。

私たちが一人ひとりにできることがあります！

東京や大阪の県人会、市場などに高知・香南を売り込みます。

買い物の時には、県内産の物を選びゆがよ～!

県外の友達や親戚に、地元の美味しいものを贈るさね!

えいもんがあつたらブログやらツイッターで情報発信するさ!

県外から来た観光客に道案内するがぜよ